

「新潟県立病院群総合内科・家庭医療後期研修プログラム（概略版）」

◎プログラム責任者 吉嶺 文俊（新潟県立十日町病院長）

◎研修プログラム対象者 臨床研修修了者

◎研修期間 3年間

◎研修定員 6名／年

◎研修内容

総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ合計18か月、内科6か月、小児科3か月、救急科3か月、その他6か月の36か月研修

【総合診療専門研修Ⅰ】（6か月～12か月）：新潟県立柿崎病院、新潟県立松代病院、新潟県立妙高病院、新潟県立津川病院

【総合診療専門研修Ⅱ】（6か月～12か月）：新潟県立十日町病院

【領域別研修】○内科（6か月）：新潟県立十日町病院、新潟県立坂町病院、新潟県立新発田病院、新潟県立中央病院

○小児科（3か月）：新潟県立十日町病院、新潟県立吉田病院、新潟県立新発田病院、新潟県立中央病院

○救急科（3か月）：新潟県立新発田病院、新潟県立中央病院

○その他（各1か月）：新潟県立病院群

◎研修概略

新潟県は中山間地、豪雪地を抱え、高齢化・過疎が進み医療需要が増大する中、県立病院はその広い県土を13病院のネットワークで支えています。救命救急センター・高度医療を主とする都会型基幹病院（県立中央病院、県立新発田病院）、地域医療を中心とする地域中核病院（県立十日町病院、県立吉田病院、県立加茂病院、県立坂町病院）、へき地・過疎地に寄り添う地域病院（県立妙高病院、県立津川病院、県立柿崎病院、県立松代病院）、特殊疾患を専門とする病院（県立がんセンター新潟病院、県立精神医療センター、県立リウマチセンター）と、多彩な医療内容で多岐にわたる県民ニーズに応えています。プログラムの中心は定期訪問診療を行いながら救急搬送年間2,000件以上の県立十日町病院で、コンビニ型救急診療や内科・小児科医療を体験でき、地域4病院により家庭医療専門研修を、救命センターを持つ2病院で救急研修を、さらに他の6病院を含めて幅広い領域型研修が受けられます。多様な病院群が協働し、県職員身分を継続できる研修環境を準備し、希望に沿った3年間の後期研修プログラムを提供します。

高齢化、過疎化が進み、豪雪・中山間地に医療資源の少ない中、無医地区・へき地を抱える地域医療など、日本の将来状況を先取り体験できる本プログラムは、総合内科・家庭医後期研修にとって理想的な環境と言えます。長年臨床を担当している指導医により、専門医取得に必要な基本的医療を学ぶことができます。さらに、がん専門病院や日本で唯一のリウマチ専門病院や精神科など、特殊病院を含む多彩で先進的な医療も経験できます。これら13病院を県職員の安定した身分で研修できるとともに、領域別研修としてもレベルの高い医療水準の研修が可能です。